郷の集い

発行
新郷小学校
愛護会文芸部
編集責任者
吉江　源右ェ門
印刷
久野印刷㈱

子どもの芽を育てよう

学校長　林　五十二

詩　すみれ

学校の帰りに、畑のそばですみれを見つけた。今ごろ咲く時期でないのに咲いていた。私はとんで帰っておかあさんに見せると「なんじゃ、すみれか。」といった。私は机についたがなにもする気になれなかった。

これは小学五年の一少女の詩です。この子にとって季節はずれのすみれを見つけたことは大発見であったに違いありません。

花にはそれぞれに季節があるという自然の法則に気づいた子どもの心には新しい世界が開けていきます。

ところが、ここに例外があって季節はずれのすみれを見つけて、不思議な自然の秩序に改めて気づいたのです。そして、この心のどよめきはもうじっとしていられない。「そうだ、おかあさんに話そう。」足どりも早く玄関に入ると声をはずませて母に見せたのです。

しかし、母のことばは、意外にも「なんじゃすみれか。」でした。母ははずんだ子どもの声に何かすばらしいことを期待してのでしょうが、それが一本のすみれだったからでしょう。裏切られたのはお互いですが子どもにとってはその失望は大きかったのです。はずんだ心のゆき場を失って、机に向っても何も手につかないのです。

せめて母が「ほんと、めずらしいわ。」とでも言ってくれれば、それだけでよかったのです。自分で植物図鑑で調べたかもしれないし友だちに話し合うようにしたかも知れません。

子どもにとって新しいことを見つけたり、知ったり作ったり、経験することはすばらしいことですし、一つの発見が次の発見や調査研究へとつながっていきます。

子どもにとって、新しい世界は不確かなもので、それを自分ひとりの心の中にしまい込んで行くことはできません。だれかに頼り、だれかに支えられて、次第に自分のものにしていくのです。このだれかが親であり、教師です。子どもにとって愛情をいだき、信頼している親や教師が、子どもの心を受け止めてくれる時子どもはすくすくと成長していくのです。

日々を忙しさに追われている私達は、こうした不用意な一言で子どものせっかくの芽生えを摘み取る過ちを度々犯しているに違いありません。子どもの成長を願いこそすれ、摘み取ろうなどとは……。悔んでも取り返しのつかないことです。子どもの一言にもじっと耳を傾け、目の輝きから子どもの心を読み取れる親としての心のゆとりと慧知を養っていきたいものです。

新任の先生ご挨拶

教頭　清水英夫

昭和五十三年度末の教職員の異動で本校に勤務することになってから早くも、一ケ月余りたちました。私にとって十八年振りで小学校勤務になり、まるで新米の様な気持ちで一ぱいです。子ども達の純真で無邪気な言動には、

「本当に可愛いなあ」

と一言につきる思いです。

今までは中学生ばかり相手で一年生に入るなり受験体制の厳しい現実にあけくれしてきました。それにひきかえ、何事にも素直に話してくれる子ども達と接し教育者としての責任の重大さがひしひしと迫り、何んとしてでも将来立派な生活が出来る人間の土台を築き上げなくてはとファイトを燃やしています。

しかも、立派な校長先生並びに教育熱心な諸先生にかこまれ、私にとっては、本当に毎日が楽しくてなりません。でも浅学非才な私には到底満足して戴けるようなことは出来兼ねるかも知れませんが、精一杯頑張りますので、御父兄並びに地区の皆々様の深いご厚情とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

大変つたない文で失礼ですが、先ずは赴任のご挨拶と致します。

愛護会会長　坪田万右ェ門

風かおる新緑の季節となり、会員の皆々様にはお変りはございませんか。

今年は土地改良事業のため、格別忙しい事であったろうと思います。昨年お役を引き受けまして以来、前半を大過なく努めさせて頂いた事は先輩の方々のご指導と皆々様の御協力の賜物と深く感謝している次第です。残り一年間学校の為に御協力の程をよろしくお願いします。

今年は福井で八月三日、四日と日本PTAの大会があります。四・五十年に一回の大会なので都合できる限り参加して頂けたらと思います。又学校の改築の話は始めに思っていた予定よりおくれるようですが、新しい校舎が出来れば、町当局の御援助頂く備品以外に、色々と金が必要でなかろうかと思います。それで今年は再度簡易保険による設備資金の増額を皆様にお願いしたいと思いますのでよろしく頼みます。その外今年は、愛護会の組織の一部を手直しをしたらどうかと意見がありますので企画委員会に図って年末頃までにまとめ上げ度いと思いますので、この点もよろしくお願いします。今年は国際児童年です。家庭と学校、そして地域社会が一体となって子供の事を見守っていきましょう。よろしくお願いします。

六年担任　宮川哲二郎

「おはようございます。」と、今朝も十四名の子供達と元気一ぱい挨拶をかわします。この何でもない一言が今日一日の子供達へのふれあいの始まりなのです。

親しく何事でも話しあい互いに信じあい、そして今日は昨日より一歩でも前進して行くのです。

前進する事をあせらず、より確実なものとするため少しずつ亀の様にゆっくりと歩むのです。

子供達を良く知り、より親しく、保護者の方とより多く語り合い、前進して行きたいと念じています。

友達を暖かい心で眺める事の出来る人。苦しんでいる人、困っている人を助ける事の出来る人。数々ある苦しみに耐えられる人。この様な人になってほしいなあと思いつつ、日頃の教育に打ち込みたいと思っています。

一年担任　近藤きくゑ

風薫る若葉が美しい季節となりました。この度の異動で本校によせて戴きまして早くも一ケ月を過ぎようとしております。入学式に始めて対面した子ども達。人数こそ少ないですが、どの子もみな生き生きとしたひとみ、実に礼儀正しく天井をもはりさけんばかりの元気な歌声を耳にしたことがとても印象的で頼もしく感じさせられました。そのほか委員会活動に学習に、運動等みなきびきびしています。

本校の目標である、体力づくり、基礎学力づくり、そして豊かな人づくり、に加わることが、本当に幸せに思います。これまで築きあげられましたことはPTAの皆様のご協力と先輩の諸先生方のご努力と信じております。微力ではございますが、力一ぱい子どもたちとともにはげんでいきたいと思います。どうか皆様方の暖かいご支援とご指導をよろしくお願いします。

五年担任　増永信太郎

〝地域ぐるみ〟「家族ぐるみ」の温かい人間関係の中で、すくすく育つ子どもたち。地域総ぐるみの中で元気よくのびのびと夏のラジオ体操をする子どもたち。家庭では、老若入りまじって話し合ったり、家族ぐるみの野良仕事をする大人の姿勢が「親切で、思いやりのある、心豊かな家族ムードのたゞよう新郷小学校〟この言葉は、私が昭和三十七年に芦原中学校に着任しはじめて本町に第一歩を踏み出した当時、先輩諸兄から聞かされた「新郷小学校の地域性」です。今も脳裏に深くきざまれています。

以来二十七年という年月が流れ、本地域にも幾多の変化が見られるようです。

しかし着任後二ケ月足らずの間に、無心に遊びまわる子どもたち、上級生をリーダーに一年から六年までの混合グループで、もくもくと清掃に励む子どもたち雨の激しい中で下級生をいたわる上級生の姿、委員会活動で親切に教える六年生の姿、更には愛護会のみなさん方や、地域の発展のために、もくもくと実践活動に励む姿等をこの目でたしかめ、肌で感じ取った時、「二十七年前の新郷小学校そのものだなあ」と確認させて頂くと共に、この地域へ寄せて頂いた喜びで一ぱいです。

地域の方々の愛のまなざしを一ぱいに背負い、素直さ誠実さを忘れず、元気に活動する子どもたちのために〝今日も来てよかった〟という言葉がみなぎる学校になるよう、一歩一歩堅実に努力したいと思いますので今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

ひとこと

母親学級委員長　斉藤　操

伝統ある母親学級も社会情勢の変化の波に乗って、今日まで続いていることはすばらしい学級の皆様方と理解あるご家庭、ならびに御指導をいただいた諸先生方のおかげと、まず感謝いたします。

このたび、母親学級委員会のお世話をさせていただくことになりましたので、ひとことご挨拶を申し上げます。

大先輩のお母さん（主人の母）の理解ある心に支えられ、この大役をお引受けいたしましたが、何分若輩の身、皆様には何かとご迷惑をおかけする事があろうかと思いますが、私なりに一生懸命頑張りますので、どうぞ、皆様のあたたかいご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、子供の指導は、学校だけでなく、良き家庭にあると思います。良き家庭には尊敬される母親がおります。子供から尊敬される母親になるためには、親も勉強し、子供心を理解し、そして、学校と家庭との良きパイプ役とならなければなりません。

この伝統ある母親学級を通じて、今年も何か一つ花を咲かせ、実のなる母親になるよう、お互いに努力しましょう。

親の宿題

中山たか子

〝子は親のかがみ〟とか。この頃真剣に考えさせられることしきり。頭が痛いですね。「でもあんまり神経質になることないわ」と勝手に安心したりしています。

私達の子供の頃はもっとのんびりしていたみたいですね。何故なら親達が忙しすぎて口だしをしなかったから。私もこの子達には、明るく、又子供らしく育ってほしいと思っています。

そして少しづつ社会生活、集団生活に慣れてくれる事を願います。

それまで私も心のかがみをみがきつづけてがんばらなくちゃあ。親の宿題として。

子供の入学

北川　英子

「いってきます」と元気な姿で出て行く子供の成長を見て保育園、幼稚園に入園したと思ったのもつかのま、早一年に入学することとなりました。親として此の子をどの様に育てて行くかと思う時、本当にむづかしいものがあります。我子の良さの発見に努め、はげまし、やる気をおこさせる事が大切と思っています。

一人前の社会人になる様心がけ、責任感のある子供に育ってくれる様祈り、家庭教育のあり方に心がけてゆきたいものです。

高戸千代子

若葉が一段と美しい季節になりました。幼稚園生活も、一ケ月あまり過ぎ、小学校の生徒達と一緒に登校する我が子を見て、月日の経つ早さに驚くばかりです。

入園当初は、歩き慣れない為、疲れたと言う言葉を聞く事がありましたが、近頃ではそんなそぶりもみせず元気に登園しています。

友達も大勢でき、園生活も楽しそうです。これからも素直で元気な明るい子に育ってほしいと願っています。

青木知里子

桜の花もまだつぼみの頃、夢と希望で小さい胸をふくらませ、ちょっぴり不安の入りまじった顔をして入園式を迎えたのは、ついこの間のこと。

「行ってきまーす。」と今朝も元気よくはずんだ声で集団登校の列に加わる。

今では、我が家の長男もだいぶ幼稚園生活に慣れてきたようで、「保育園より幼稚園の方が楽しい」と言って喜びを表わしています。

しかし、親としてまだいろいろ不安な毎日ですが、元気でのびのびと大きく羽ばたいてくれるよう祈るばかりです。

入園にあたって

西正サチ子

期待と不安を胸にいだき向えた入園式もすぎ、はや一ケ月がたちました。

いままでの保育園とは違い集団登校、朝の早いこと、雨の日も風の日も歩いて通園する事など、親の心配をよそに、我子は毎日、はりきって出かけ、このようすに、一安心している今日この頃です。

先日の学級懇談での先生の話をうかがい、年令の違う大勢の子供を一人で指導されるのを、つくづくたいへんな事だと痛感した次第です。先生ご苦労様ですが、この一年よろしくお願いいたします。

そして先生方や、小学校のお兄さんお姉さんに見守られ、のびのび成長してくれる事を楽しみにしております。

白崎ふさ子

保育園のバスが迎えに来る公民館までを、眠そうに出かけていた子供が、上級生のお姉さんたちの「学校行こう。」と言う誘いに、すぐ家をとびだし走って行きます。これも、保育園とは違う幼稚園になって、大きくなったのだなと、喜んでいる毎日です。学校生活にも慣れて来た様子で、みんなとよく遊ぶ様になりましたが、このところ理屈ぽくなり、私たちは苦笑いしています。これも成長と思いこれからの子供の成長を楽しみに、いっしょうけんめいがんばりたいと思っております。

小さい頃を思うと

篠崎　巌

野も山も新緑につつまれ良い季節になりました。私の勤め時間と子供達の登校時間が合うため、途中の道路で毎日合うのですが、子供の近くを通る時は、ゆっくり通らねばと思います。

私が小学校の頃、学校の前でも自動車の数を調べた時は自転車か人の方が多かったような気がします。

テレビも小さい頃はなかったものですが、私自身子供には「余り見ると、勉強が出来なくなる」と言いながらも、見過ぎしてしまう親になってしまいました。

昔の親と、どうもちがう様な気がします。

一年生になって

北嶋勝二郎

まだまだ小さいと思っていた我が子が幼稚園から小学校へ入学して一ケ月余りが過ぎようとしています。

幼稚園と同じ校舎へ通うため学校には慣れていても一年生になって初めはわからない事もあり、どまどっていた様子もありましたけれど、今では元気に通う毎日です。

親の私どもには新郷小学校の行事や規則などわからない事ばかりです。

これからは先生方や御父兄の皆様の御指導を受け、がんばりたいと思う次第です。

子供も先生方の教えを守り健康で明るい子に……親として願う次第です。

新入園児に思う

植田　勇

桜の花の季節に新郷幼稚園に入園いたし、はや一ケ月が過ぎ去ろうとしています。

心配事はいろいろあり、つきぬことですが、現在の所元気一杯入園している様子なので嬉しく思っている次第です。とかく最近ではさまざまな事件が新聞紙上をにぎわし、自分だけがよければ、他の人はどうでもよいとか、モラル低下がさけばれております。家族達で行楽にいくにしても、ゴミ袋を携帯するとか、必ず指定のゴミ箱に捨てさせるといった小さな事一つ一つ親が身をもって示してやり正しく元気な子に成長させていきたいと思っています。

習う

吉江源右ェ門

私が習字を習ったのは、国民学校四年のとき、当時六年担任の黒石先生から金津部に出すからと言って特別に習ったのが始まりのような気がします。

何にを書いたか記憶にないが、墨でかすれたところまで、全く同じ手本を書いて下さったのを覚えています。先生は練習をすれば書けるといった、その一言に今でも励げまされています。

その頃、私の目標に、講堂にすばらしい字で「光風」青木廣枝と書いて何年も学校に掲げてあったのを覚えています。

今でもその字を書きたいその字を見たい、と思いながら遠い昔のことを想い、かなに楷書に、草書に、と筆を走らせている次第です。

修学旅行の想い出

吉江

ぼくは神戸が一番楽しく心に残った。それはポートタワーにあがったことだ。

神戸市のまちなみや港が室から見ることができた。

それまでのバスのつかれがぶっとんでいったような感じだった。みんな、「バスや自動車がミニカーみたいや。」といっていた。本当に小さく見えた。

タワーでおみやげを買った。妹には鉛筆とはがきを買った。ペナントも買った。

それから、一番乗りたかった船に乗った。

六年生百七十三名が乗ると、重さでしずんでしまうみたいになった。ぼく達は一番下の窓の所にすわった。窓ぎわに波があたっておもしろい。

造船所もあった。潜水かんもあった。初めて見るものばかりでおどろいた。

白崎

二日目で一番おぼえているのは、東大寺です。

東大寺は、奈良朝の昔、総国万寺として建立された寺で、今では華厳宗の大本山だそうです。

姉が、「東大寺は、とても大きい」といっていたので、どれくらい大きいのか興味を持っていましたが、あまりにもの大きさにびっくりしてしまいました。

何百年も前に、機械もなにもない時代に、どうやってあんなに大きなものを建てたのかとふしぎに思いました。昔の人の努力に改めて感心させられました。

いつも人数の少ないと残念に思っていたわたしたちですが、そのために、ちがう学校の子と同じバスになって友だちになれたのがよかったです。

二日間楽しいことばかりでした。

小嶋

京都の二条城は、うぐいすばりの床がおもしろかった。歩くとキュッキュッとなるのだ。

「このような木はまだあるけれど、作り方で決まる。」と先生がおっしゃった。

城の中は、昔の衣装をつけた人形がすわっていた。

はじめは、本当に人がいるのかと思ってしまった。

将軍様と対面しているところだった。

庭も見事で木がたくさん植えられ、しばもはえていた。おほりには鳥が水あびをしていた。外国人もいた。

わたしは、この庭を歩いてほっとしていた。心が安らいだのだった。ずっと歩いても、ごみ一つ落ちていない。見学している人も気をつけているのだろうけど、やはり係の人がきれいにしているのだろう。自転車で見まわっている人もいた。

わたしは、このようにきれいにしなければいけないなと思った。

田畑

宿舎について、さっそく夕食だ。あまりうまいものはない。だが二はいご飯をおかわりした。

ご飯が終ってからふろに入った。ぼくらの番になるとみんなで入った。とてもあついのでがまんくらべをした。一位は決まらなかったが、一番初めに上ったのは小木君だった。

ふろから上っておみやげを買った。とらべことひょうたんと人形を買った。

ふとんが敷かれたので、ゲームを見に行った。うまい人もへたな人もいる。

へやにもどってから、まくら投げをした。でもすぐ先生が、「もうねるぞ。十時までにはねろよ。」とおっしゃったので、ぼくたちはふとんの中にもぐりこんだ。でもみんなといっしょなのでねむれない気分だ。

なん度も注意をうけたので本当にねた。

＊　＊　＊